

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900016		
法人名	株式会社東京酸器		
事業所名	ディアフレンドならしの(グループホーム)		
所在地	千葉県船橋市習志野1-13-17		
自己評価作成日	平成21年7月20日	評価結果市町村受理日	平成21年9月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成21年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年前新築された施設で設備が新しく、光がよく取り入れられ明るく居心地の良い居室となっている。事業所はパーソンセンタードケアの実践に努めておりご本人ご家族の話を良く聞き、ご本人の“やりたいこと”が実現できるように力を入れている。また掃除や調理等の日課や趣味・特技を発揮していただく役割を担い“生きがい”持って生活が遅れるよう取り組んでいる。職員は、理念をもとにまとまりながらサービスの実践に取り組んでいる。また小規模多機能ホームを併設しており当グループホームへの入居される方も出ており地域密着型介護サービスとしての連携も実際行われるようになってきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑の広がりのある開放的な立地に恵まれ、太陽の光が差し込む居心地の良い居室となっている。また新築3年目の施設であり、設備も新しく木の温かみを感じる心休まる居室空間である。理念・目的・運営方針を重要事項説明書に記載し、全職員で「標語」を考えるなど、目標の共有化を図っている。パーソンセンタードケア(その人らしさを尊重する)の実践を創業時より心がけている。本人や家族の話を良く聞き、「本人のやりたいこと」が出来るように努めている。小規模多機能型居宅介護を併設しており、サービス開始より3年の努力が実り地域密着型サービスとしての使命が充実しつつある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度よりスタッフ全員で理念をもとにした標語「明るく、楽しく、笑顔のある日々を！」を作成し、毎日の実践につなげている。	法の基本方針の理解の下に理念・目的・運営方針を定め、重要事項説明書などに掲載している。職員には標語を皆で考えるなどして、日常の実践につなげる努力をしている。	課題のミーティング等の機会に、理念の実践に向けて、原点に立ち戻って職員間で話し合い、より一層理解を深めるように希望したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や施設行事への参加又地域交流スペースを活用し地域との共同行事をおこない交流を深めている。	地域町内会の祭りへの参加や、またホームの夏祭りなどの行事に地域の方含めて120名参加されるなど、地域との交流が盛んに行われている。散歩時の見守りなど日常的交流も深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員の方を招き、事業所の説明や意義、意見交換を開催するなど地域での認知症問題点や地域での事業所の役割を理解していただき、共に支えあえる環境づくりを心がけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催することを徹底し、地域やご家族、行政の方々に出席いただき、事業所報告や意見交換を図り、施設内の事故についても報告し意見をきくなどして、日々のサービス向上に活かして行けるよう努めています。	2か月1回、地域の方、利用者代表、行政の方が出席され、開かれた皆で一緒に作る運営を目指して開催されている。要望・助言など率直な意見交換が行われ会議内容が充実している。	今年度の外部評価より、事業所の自発的な目標達成計画を公表することになるので、その遂行を見守る役割も期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の不明な点や人員基準等の相談、事故発生時の報告をすることにより、協力関係を少しでも築けるよう努めている。	市の担当者に、報告・相談・問い合わせなど連絡を取り、協力関係を築くよう努めている。	市の担当者に外部評価の結果報告などにより、より一層の協力関係の構築を期待する。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職時のオリエンテーションの際にも説明・理解をして勤めてもらうようにしている。	「身体拘束をしない」ことは契約時に説明し、実践している。職員には入職時に徹底している。実践に伴うリスク管理については毎日の申し送り等で情報共有されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の観察で発見した事は、ヒヤリ・ハットの活用、申し送り、会議で情報交換し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、ご家族様には随時説明と必要時資料を渡す事をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、必ずご家族と共に説明し確認しあいながら進行し、都度質問や疑問点に答えて、理解・納得の上で最終的に同意いただく。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に時間をとっていただき日常の状況、それに対する要望、意見等を聞き対応している。	家族訪問時や家族・職員懇親会時に利用者・家族の意見を職員が聞き運営に反映している。最近の例では看取りの要望を受け、体制を整え実現している。	家族会等利用者や家族が意見・要望を表せる機会が多くなるように希望したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や休憩中、親睦会等で意見・提案を可能な限り受け入れ実施している。	毎月のユニット会議等では会議テーマを前もって連絡し、全員が自分の意見をメモして参加する等により会議が活発の様である。利用者の個別対応や業務改善、行事など職員意見中心に運営されている。	職員主体の会議で「やりたいこと」など話し合いながら、能力開発の場としても活用することを希望したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接時部署の希望を取り入れている。また、相談があった際には、職員環境や条件を可能な限り受け入れるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を計画的に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じて、研修参加時などで交流を図って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず体験入居を実施し、状況把握に努め、出来る限り要望を受け入れ、安心していただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談、電話での相談など何度でも不安なことはないようにしている。又、いつでも面会にきていただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時必要に応じて他施設の紹介もおこない支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の上で本人のできる事を共に行いながら、時には教えてもらいながら、介護に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、面会時の立会いや、施設行事など本人とかわりかかっているよう支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会をご家族へ依頼したり、行事や散歩等で懐かしい場所へも行ってみる等工夫をして、関係が途切れないような支援に努めている。	家族の面会や外出、外泊など家族と一緒に馴染みの場所に出かけることが多い。食事や散歩の希望で行きたい場所に出かけるなど支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレク・散歩など職員が常に利用者同士が関係を持てるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時間があつたら、他利用者と共にお茶の時間を持っていただくなど、来所していただいている。その際にも情報収集に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に利用者担当制を作り、本人の意向を把握し実践に向けている。困難な場合は、会議で話し合い出来る限り意向に添えるよう型をかえるなどしている。	入所時に生活歴調査表にて好きな食べ物、得意なこと、過去の出来事など出来る限り把握するが、多くは入所後、日常生活の場で望みを聞いたり思いを把握・記録し、会議で話し合っ計画に反映している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時の情報や面会時など家族とのコミュニケーションにつとめ、情報を得てこれまでの生活環境に近づけるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録、申し送り、会議、マッサージ師、医師、歯科医などと常に情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録の確認やカンファレンスの実施、医師やご家族・本人の意見を取り入れ作成する。	全職員による日常の観察記録により、毎月のカンファレンスで見直し本人・家族の意見を取り入れ作成されている。	介護計画の実践がより一層高まるように職員による使いやすい様式の工夫など望みたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日のスタッフが記録にかかわり、情報を共有できるよう、記録用紙も新たに作成した。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者個々の生活スタイルは、可能な限り柔軟に対応し、介護サービスだけでなく、生活の場所であることを最大限に配慮するよう勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活支援の定期的なボランティアの活用をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望を聞いている。定期的受診以外ご家族の対応が不可能な時には、付き添いも行って適切に受けられるようにしている。	契約時に本人・家族の希望により、かかりつけ医を決め、受診の場合家族対応が出来ない場合、付添等適切な支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問診療前には情報提供を行い、個々の利用者の状況を把握すると共に、定期以外の受診には、相談や連携、必要時職員も付き添う等支援に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの情報交換や定期的に面会にでかけ利用者の状態の把握に努め、看護師さんや医師、ご家族様からも情報収集に努めて、いつでも受け入れができるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事を十分説明し、納得していただいた上で意向の確認書に記載、ホームドクターと面談をしたうえで医師、ご家族、スタッフ協力のもと今年から支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについて、利用者・家族の希望があり、他施設の見学や医師の協力依頼、職員研修など体制を整備し、今年度看取り支援を行った。	ターミナルケアの実施体制を整備されたので、出来るだけ支援を続けられる様に希望したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内マニュアルを作成実施できるようにしている。又スタッフは随時市の救命講習を受け、心配蘇生法やAEDの操作方法を学んで実践に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との年間消防訓練の他、利用者・職員による定期的な避難訓練も実施している。	消防署の指導のもとで、地域の方の参加を得て大規模な消防訓練を実施している。また定期的な避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に側でソフトな声で疑問系での言葉かけを心がけるようにしている。決して命令口調の言葉遣いはしない。又、時間におわれるような対応はさけるように心がけている。	個人の尊厳を守るため接遇面では、言葉づかいや目線などに配慮し、また万が一不都合な対応があった場合その場で注意をしている。月の会議時にも話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「無理に嫌がることをしない」何事にも本人の意向を確認してから行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共用空間を有効に使い、個々でゆっくりと過ごす方や歌や体操や散歩など活動的に過ごす方とご本人のペースや希望を聞きながら支援するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みのものや体型に合うものをご家族に持参していただき、外出時などはより一層おしゃれをしてでかけている。また理美容は、地域の店と連携を図って出かけてりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好物を一緒に買いにでかけ調理をし、食事で召し上がってもらったり、外食も楽しんでいる。	委託業者が給食委員会に出席し、利用者の個別要望や行事食・誕生食の希望を聞きいれ対応してくれる。また利用者が献立を考え、食材の買い出し、料理を一緒に行うなどの楽しみ企画もあり好評である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の摂取量を確認し、少ない時には、補食や時間をおいて好物の提供など行っている。又水分は日中1時間おき夜間は随時好みの物や内容を変え提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施、スタッフによる一部介助、さらに必要な方に訪問歯科診療で口腔ケアを行って清潔保持につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を最小限度におさえる為、失敗、失禁即おむつとならないよう、スタッフで話し合って十分な観察、排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄パターンを把握し、サインを見逃さずトイレ誘導している。日中はオムツはゼロであり、職員の努力は高く評価できる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排泄の確認をおこたらない。又弁の状態も観察した上で薬、飲食物などの内容や量、運動の工夫を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるように準備をして、その方のタイミングや声掛け誘導を行い、個々に合わせた入浴ができるよう支援している。	希望があれば毎日入浴できる体制であるが、平均して3～4回/週入浴している。浴室内の事故防止のため必ず一人見守りに入り、機械浴では2人体制で行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調不良等ない場合は、共用空間にて好きな方とゆっくりすごしていただき、夜間は就寝前にお茶タイムを設け各自で就寝する時間を決めるなどよく眠れるよう支援に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による施設内研修を開催しスタッフ全員に薬について知識をもって誤薬、副作用に十分注意し支援できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしながら、日課の中で調理や洗濯等の役割をされたり、生活のリズムに合わせて歌や書道、手工芸の楽しみごとをご本人の意思で活躍していただくなど配慮しながら支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの外出は日常的に行われている。又企画を立てて個別外出も実施、ご家族の協力も得られている。	近所の散歩、公園散歩、買い物など出来るだけ職員体制を整え行っている。また京成バラ園、ビール工場、葛西臨海公園など外出レクリエーション企画を立て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、お金をご本人に持たせていただき、希望の物を可能な限り自分で購入できるように支援することに努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で居室に取り付けられたり、携帯をもったりそれ以外必要時は窓口で随時取りつぎを行っている。又手紙を郵送したい時にはポストまで一緒に出かけ投函している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の空間より共用空間に太陽の光が差し込み明るく風通しも良い。また白と木目調で内装は統一してあり、落ち着きのある居心地よく過ごせるよう工夫してある。玄関には季節に沿った手工芸の作品を飾る等している。	太陽の光が差し込み明るい居心地の良い居室である。共有空間も広くゆとりがある。季節感や玄関に飾りつけるなど工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、食堂と居間を分けて設計しており、又エントランスもあり時には大勢で活動したり、時には個人的な方々やご家族とのふれあいの場所としても使ってもらえるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に今まで自宅で使用されていた家具・持ち物は自由に持ち込んでいただき、住み慣れた居室環境を提供できるように配慮している。	各利用者の居室には使い慣れた家具や飾り物、仏壇など持ち込まれ個人の住み慣れた居住環境を作り出している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下への手すりの設置、バリアフリー、各自居室前の表札設置、トイレ前の常夜灯など昼夜とも安全で自立に向けた工夫をしている。		